

XIII 特色ある公民館活動

1 西戸畑・地域ふれあい推進事業

～体験・環境・伝承活動を通して～

北九州市立西戸畑市民センター 館長 松尾 剛

1 西戸畑地域ふれあい推進事業

(1) 事業の概要

この事業は、文部科学省委託の「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業として取り組んだ活動・事業である。西戸畑・地域ふれあい推進事業は、主に三つの活動を柱にしている。それは、①農業体験学習②環境浄化学習③地域文化の伝承である。

(2) 達成目標

第1目標 「学びあい」でふれあいの輪を広げ、気軽に声かけできる地域集団の創造

第2目標 いざという際の「支えあい」ができる地域連帯意識の高揚

2 事業の実際

(1) 農業体験学習～サツマイモ栽培

① サツマイモ植え付け

農業体験学習は、まず畑作りから始まった。場所は、西戸畑児童館の園庭。更地の園庭を始めにユンボでおこし、次に人手で鍬を入れて畑へ。これは何日にも及ぶ難作業であった。次々に出てくる大小のゴロ石、コンクリート片に閉口。しかし、全員の気持ちは揺ぎ無く、約12m×8mの広さで13畝の立派ないも畑が完成した。

5月24日(土)にいよいよサツマイモの苗植え付け。天気に恵まれ、開始の10時には、まちづくり協議会、自治会、婦人会、子ども会、西戸畑児童館等、各団体から約80名が集まった。また、戸畑中央小学校の校長先生や区役所の方々が激励に駆けつけてくれた。いも苗は北九州市農事センター推奨、鳴門金時400本。植え方の説明を聞いた後全員で丁寧に植え付けていった。

作業後は、児童館で婦人会の手作りのぜんざいを美味しく頂き、収穫への期待が大きく膨らんでいった。

② 水遣り・草取り・つる返し

水遣りは、週2回実行委員で当番割をつくり、行った。畑が広いので、スプリンクラーを設置し大活躍。草取り・つる返しは、月に一度、定期的に計画していった。多くの方々に参加して頂く為、各団体に精力的に呼びかけていった。

③ 西戸畑いも掘り大会

西戸畑地区の方々が楽しみに待っていたいも掘り傍を通るたびに、畑を見たり、いものつるの育ち具合が何かと話題になっていた畑の周辺。西戸畑いも掘り大会の当日。11月1日(土)の開始間近には、親子連れ、エプロン姿の年長者の方、小学生等続々と会場に集まってきた。



その数、何と約 150 人。全員で歓声をあげながらあっという間に掘りあげた。大収穫で、心に残る一日となった。

(2) 環境浄化学習～エコ石けんづくり

① エコ石けん作り



環境浄化学習の第2回目は、いよいよお目当ての「エコ石けん作り」である。9月30日(火)の夜に行われた。エコ石けんは、肌や環境に優しい石けんであり、環境浄化学習の狙いである。材料は、前回学習した米のとぎ汁EM発酵液を使用する。他の材料は、カセイソーダ・廃油である。

混ぜ合わせるとき、高熱を発生する大変危険な難作業である。全員、マスク・ゴム長手袋・エプロンと重装備。混ぜ合わせた材料を、30分間かき混ぜる根気のいる作業であった。怪我人なしで、ホッと一息。無事にエコ石けん作りの過程を終了した。かき混ぜた石けんの原液は、プラスチックの容器に入れて、約1週間乾燥させる。

② 石けんの完成

1週間後の10月7日(火)の夜、「石けん切り」を行った。1週間、陰干ししたエコ石けんの原液は見事に固まっていた。プラスチックの容器をひっくり返すと、容易に取り出すことができた。この大きな石けんの固まりを、「テグス」(釣糸)を引きながら一つ一つの石けんの形に切っていくのである。そして、約2ヶ月間陰干しをして乾燥させる。12月の中旬、約120個の待望の「エコ石けんの完成」である。

(3) 地域文化の伝承～戸畑祇園太鼓の伝承活動

① 西大山笠・戸畑祇園太鼓の伝承会

戸畑は真夏の7月になると、決まって熱い熱気に包まれる。7月は戸畑祇園山笠の月。ここ西戸畑地区は、祇園の競演会を飾る一角・西大山笠の根城である。今年で二百五年目を迎える。祇園に対する地元の方々の思いは、一つの祭りとしての思いだけでなく、文化、伝統、生活など、全てを包括した計り知れない深いものがある。

西大山笠・祇園太鼓伝承会は、7月5日(土)戸畑祇園太鼓の舞台となる恵美須神社境内で行われた。西戸畑地区の全子ども会が集合した。子どもと大人合わせて約80名が集まった。本番で使う西大山笠の大太鼓が皆を出迎えてくれた。師匠は、西大山笠の若衆3人。黒光りする漆塗りの大太鼓。子ども達は叩くのは、おそらく初めてであろう。始めのうちは、ぎこちなく聞こえたが、次第に、町中に響く良い音色に変わっていった。気がつくやうに、勇壮な音色に引かれて、周りには多くの観客が集まっていた。必死に撥を握る子ども達を見守っていた。

ここで伝授された太鼓の叩き方は、各子ども会・各地区で約1ヵ月毎晩練習を積み重ね、子ども達は伝統文化の伝承に励んでいく。

② 戸畑祇園山笠

楽しみに待っていた戸畑祇園山笠。今年は、7月25日(金)・26日(土)・27日(日)の三日間に行われた。子ども達も、銀座・鳥旗・元宮の各地区の子ども山笠



で大活躍する。最終日の27日には、西戸畑市民センター前に集結し、健闘を称え合う儀式がある。山笠の集合は、正に壮観である。3つの山笠と約二百人の観衆。西戸畑の心が一つになる瞬間である。

子ども達は、各山笠の自分の持ち場で必死に太鼓を叩く。自分の持ち場で見た風景は、一生忘れることはないだろう。

3 事業の成果

(1) 気軽に声かけができ、ふれあいの輪が一層深まってきた。

この一年間、西戸畑地域ふれあい推進事業に地域全体、まちづくり協議会挙げて取り組んできた。3つの活動・「体験」「環境」「伝承」学習を通して、第1目標のふれあいが、一層深まってきた。収穫の喜びをより多くの方々と味わおうとパトロールの時に「スイートアップルいも」を作ったり、家で作った「いもの茶巾絞り」を皆で食べようと持ってきたりする、結び合おうとする積極的な姿が多く見られるようになった。活動を共に行き、且つまた、共に学ぶ中で気軽に声かけできる楽しさを体得することができた。

(2) 自分の生活を見直し、エコ生活を創り出そうとする意欲が地域に、家族中に広がっていった。

有用微生物のEM発酵液は、私達の生活を豊かにするうえでさまざまな効用がある。EM発酵液を使った環境エコ生活を進んで実践していこうとする姿が多く見られるようになった。有用な効果がロコミでどんどん広がっていき、多くの皆さんが米のとぎ汁発酵液を作るために、市民センターに集まるようになった。また、家族の中でも、妻から夫へ、年長者から子どもへ広がっていき、EM発酵液の素晴らしさを実感している。EM発酵液を活用した環境エコ快適生活が、臭い消し・拭き掃除・洗濯・花壇・風呂など、多くの場面で広がっていったようだ。

4 事業の課題

(1) 地域連帯意識の高揚には、もう少し努力が必要であった。

この事業の第2目標である『いざという有事の際の「支えあい」ができる地域連帯意識の高揚』は、まちづくりの究極の狙いである。活動や実践の高まりが、連帯意識の高揚に繋がればと考えたが、たやすく達成できるものではなかった。今後の継続的な取り組みの高まりに期待する。

(2) 活動参加者が、より多くなれば、更にふれあいの輪が広がっていく。

今年一年間、西戸畑まちづくり協議会は、文部科学省委託「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業に、西戸畑・地域ふれあい推進事業として、体験・環境・伝承活動に組織的に取り組んできた。どの活動に対しても、参加者は献身的に努め、大いに盛り上がる事ができた。

しかし、参加者が、どの活動においても限られていた。理事・委員の役員を越えて、爆発的に人数が集まることがなかった。もう少し、参加者が増え、男手のリーダーが集まれば、更にふれあいの輪の広がりが期待できる。

問い合わせ先

〒804-0074 北九州市戸畑区南鳥旗町3番17号

北九州市立西戸畑市民センター

電話093-881-2330 FAX093-881-2330